



まちづくり情報サイト

「街元気」は、まちをもっと元気にしようとまちづくりに頑張る人を応援します

f シェアする

Tweet

🗺️ サイトマップ

イベント・メルマガ

研修・オープン会議

学習教材・統計

コラム・事例紹介

タウンプロデューサー

まちづくり掲示板

政策関連情報

このサイトについて

## コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 風景の一部になる 地元出身だからできる地域のまちづくり（前編） 上田 嘉通さん

街と、人と、生きていく。  
マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

### 風景の一部になる

地元出身だからできる地域のまちづくり（前編）  
埼玉県寄居町・タウンマネージャー 上田 嘉通さん

f シェアする

Tweet

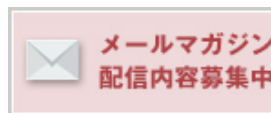
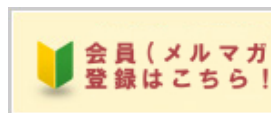
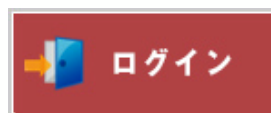


### 上田 嘉通（うへだ よしみち）

早稲田大学大学院理工学研究科を修了後、海外の都市開発や、日本の島々の振興や調査・研究に携わり、人とのコミュニケーションを通じた地域づくりの実績を持つ。2018年出身地の埼玉県に帰り、株式会社小田屋設立。株式会社まちづくり寄居タウンマネージャー・一般社団法人離島総合研究所代表理事・株式会社JTB総研客員研究員などを兼任。37歳。

埼玉県寄居町のタウンマネージャーとして活動する上田嘉通さん。柔軟な発想で、コミュニケーションをコンセプトとしたイベントを数多く立ち上げています。日本の地方都市の魅力、人と人とのつながり、信頼関係がお金を動かすようになる仕組みなどについて、お話を伺いました。

現在に至るまでの具体的な経緯をお聞かせください。



🔍 もっと詳しく検索する

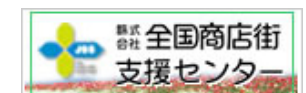
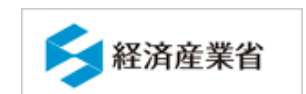
大学院を卒業後、就職し、さらに2回の転職を経て、独立しました。

学生時代は土木を専攻していました。建築に進みたかったのですが、受験での失敗もあり、土木を専攻することになりました。当初、学問として似ていると思い、専攻したものの、両者の価値観は全く異なります。土木は、美しさや人に見られるということは意識しておらず、経済合理性が重視されます。私は美しい風景を作りたいという強い想いがありましたので、土木はおもしろくないなと思っていました。

しかし、大学3年生の頃、土木の中にランドスケープやデザイン研究があることを知り、さらに篠原修先生の「土木デザイン論」に影響を受け、大学院に進みました。大学院では、景観などのデザインを勉強することになり、ようやく「土木いいじゃん!」と、胸を張って言えるようになりました。また、土木に関わる人たちの人間性もその理由のひとつです。土木に関わる人の多くが純粋であり、社会に貢献したいという強い意欲を持っています。例えば、土木に関わる人はプランを作る際、「こうしてあげたらどうだろう」と、他の人が実際に使うことを意識した目線を持っています。一方、建築に関わる人は「こうしたい」という、自分の意思が感じられる言葉使いが多いという特徴があります。土木は公共事業が占める割合が大きいこともあり、「自分の利益よりも、社会の利益のために」というマインドを持つ方が多いのではないのでしょうか。振り返ると、「人の役に立ちたい、社会を豊かにしたい、美しい風景やまちを作っていきたい」という今のモチベーションは、大学院生の頃に形成されたものだと思っています。

最初の就職先は都市計画の設計会社でした。美しい風景を作りたいという思いがありましたので、「自らデザインして作る」という意気込みで入社しました。配属された部署は、案件の規模が大きく、「海外の何ヘクタールもの大きな土地に、どのように道路を通すか」から考える仕事でした。特に、ベトナムを中心に担当していました。ベトナムは社会主義国ですので、自ら提案し、相応の立場の方が提案を承諾したら、実際に形になって進んで行きます。そのわかりやすさがおもしろく、やりがいがありました。

しかし、その反面、もともとの想いである「人の役に立ちたい、社会を豊かにしたい、美しい風景やまちを作っていきたい」が実現できていないのではないかと感じるようになりました。開発する周辺の農村集落は、決して裕福ではありませんが、皆幸せそうに暮らしています。人々の営みの中に、その土地に根差した美しい風景が垣間見えます。それは、誰かがデザインした風景ではありません。生活の基盤となる農業があり、そこに暮らしがあり、そして風景となっています。自分が作ろうとしていた新しい風景ではなく、すでにそこにある風景こそ、本当に美しいものと感じました。自分はゼロの中から作って



いきたいと思っていましたが、そうではないことに気づいたのです。道をつくり、建物を建てるといったハード面ではなく、その土地の産業や農業を守り、風景そのものが生まれるしくみも守っていけるようなソフト面での関わりを重視したいと考えるようになりました。

それから、3年後に会社を辞め、都市計画のコンサルティング会社に入社しました。今のように地方創生というキーワードが頻出する以前から、地方のまちづくりに関する実績を多数有する会社です。

地方の業務を担当する中、入社した年の3月に東日本大震災が起きました。それから2年半ほど、南三陸町にて、被害に遭われた方の住宅を高台に移転し、集落を再建する事業に関わりました。住民と地権者、それぞれの意見調整、合意形成が求められる事業でした。

この事業の遂行には、設計とプランニングの両方が必要となります。設計に関わる方は、年配の技術者の方が中心です。ただし、技術はありますが、職人肌で住民の意見を聞くような経験はありません。一方、若い人たちは、柔軟な思考で、ワークショップをはじめ、学生の頃からまちづくりの経験はありますが、ハードに関する設計、開発など、絵を書くことができません。そのような中、「上田は両方できる」ということになり、この事業を担当することになりました。やりがいもありましたし、仕事としても楽しかったです。しかし、住宅は再建できても、生業はいまだ復興できていなかったため、漁師さんから「仕事がまだ復興していないのに借金をさせるのか」などとも言われました。そのようなことから、産業振興への貢献ができる仕事をしたいと考え、住宅団地の着工を見届けた後、会社を辞めました。

3社目は、現在も客員研究員としてお世話になっているJTB総研です。入社の際、社員の方から「好きにして良いよ」と言われました。観光分野以外の経験もあることから、自分自身ができること、やりたいことを実現することで、会社としての仕事の幅も広がれば良いという意味から、「好きにして良いよ」という言葉をかけられました。そこで、以前から関心があった「離島」の仕事を始めようと、まずは国交省の公募案件に応募しました。運良く、1年目で仕事を受注することができ、島の仕事が始まりました。その年は複数の仕事を受注したため、島にばかり行っていました。そうすると、徐々に会社の中で、上田は島の担当だという認識になっていきました。

調査事業としていろんな島に入っていくと、島に対する知見が深まります。島の仕事は薄っぺらな知識ではできないので、訪問回数を重ねるごとに、専門家になるためのサイクルが生まれました。今でも、「島の仕事は上田に」と言われます。島の仕事で、国のアドバイザーなども担当させて頂き、島好きの自分としてはとても楽しかったです。



## ■ 関連リンク

株式会社まちづくり寄居

離島総合研究所

JTB総合研究所

風景の一部になる 地元出身だからできる地域のまちづくり（後編）

登録日 2019年3月29日（金曜） 00:00

---

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）

主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



まちづくり情報サイト

「街元気」は、まちをもっと元気にしようとまちづくりに頑張る人を応援します



Tweet



サイトマップ

イベント・メルマガ

研修・オープン会議

学習教材・統計

コラム・事例紹介

タウンプロデューサー

まちづくり掲示板

政策関連情報

このサイトについて

## コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 風景の一部になる 地元出身だからできる地域のまちづくり（前編） 上田 嘉通さん - 2ページ目

街と、人と、生きていく。  
マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

### 風景の一部になる

地元出身だからできる地域のまちづくり（前編）  
埼玉県寄居町・タウンマネージャー 上田 嘉通さん

充実した島の仕事をされている中で、  
地元寄居町に戻る転機はどんなものだったのでしょうか。

若い頃は、寄居町が嫌いでした。田舎町を“ダサく”思っていました。

29歳の頃、祖母が亡くなりましたが、寄居町のことを考えるようになったきっかけです。私はおばあちゃん子で、男三人兄弟、祖母が面倒を見てくれました。祖母は、92歳で亡くなるまで、寄居町生まれ、寄居町育ち、寄居町を出たことがない人です。でも、寄居町のこと大好きで、他のまちのことは知らないけれど、寄居町は本当に良いところだとずっと話していました。その意味を理解していませんでしたが、祖母が好きだった寄居町がどんどん衰退している中、自分の仕事で、経験を積み、寄居町に戻ったら、何かしら貢献できるのではないかという思いがありました。でも、それは「いつか戻る」というレベルでした。

実際に寄居町に戻ったのは、寄居町商工会の事務局長である杉山明功さんとの出会いによるところが大きかったです。寄居町のことを意識し始めた頃、寄居町でがんばっている杉山さんをフェイスブックで見つけました。面識はありませんでしたが、「寄居町出身でいずれ戻りたいと思っています」というメッセージを送りました。その後、何年か経ち、杉山さんに会う機会があり、「いつ戻るのか」と聞かれました。当時35歳であった自分は、漠然と「10年後ぐらいですかね」と答えました。すると、杉山さんに「遅すぎる。45歳過ぎて戻ってきたら自分の居場所はないかもしれないぞ」と言われました。

その後、2017年、商工会主催の会合で講演をする機会を頂きました。町長、商工会長、各議員の



ログイン



会員（メルマガ）  
登録はこちら！



メールマガジン  
配信内容募集中



マチイベ！  
-街のイベント-  
掲載依頼募集中

Q サイト内検索

検索

🔍 もっと詳しく検索する



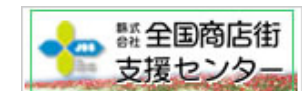
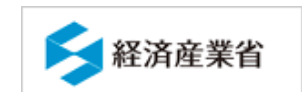
方々などに挨拶をする中で、自分がいろんな地域の振興に携わってきたこと、寄居町出身であることを知って頂くことができました。寄居町の方の顔が分かるようになりましたし、東京にしながら寄居町のイベントに関わるなど、少しずつ寄居町での活動を始められるようになりました。

この頃、腹をくくるエピソードがありました。国境離島のアドバイザーをやっていた頃、尊敬する仲間から「おまえに地域を変える力はない」と言われました。コンサルタントとしての関わり方では、何かあれば地域を離れてしまいますし、そのような人に地域を変えることはできないという意味でした。それは、なんとなく自分自身でも思っていたことであり、コンサルタントとして、いずれその地域から離れることを前提として関わっていて、何の意味があるのだろうかと思っていました。もやもやしていた思いを言語化して頂けたという気持ちになりました。自分が関わった事例は数多くあっても、自分がいる現場がありません。そのような“根無し草”のようなことが嫌いでしたので、もっと根を張る部分が欲しいと強く思うようになりました。また、逃げられない場所が良いと思ったので、地元を選びました。戻らなければダメだと考え、腹をくくることができたのだと思います。

もうひとつのエピソードもご紹介します。私が寄居町に戻ることを地元の友達から聞きつけた母親が、私に電話をしてきました。電話の向こうでは、母親が泣きながら、「帰ってくるって聞いたけど本当なの」、「人口が減って若者がいないまちに帰ってきてどうするの」、「帰ってこないで欲しい」と話していました。以前、離島の仕事をしている際、高齢化が進み、若者がいない状況を作り出している根本的な要因は、親が子供に帰ってくるなと言っているからだということがありました。そのため、私は、離島の大人たちに対して、「親が子どもに対し、“漁師を継がないで欲しい”や“良い大学に進学し良い会社に就職してほしい”と言っているようでは、子供は地元に戻らない」と話していたのに、自分自身も同じようなことを親に言われることとなりました。「自分の子供が帰りたいと言った時に「帰っておいで」と言える町でなければならない」と母親を説得したのですが、母親の一言で、島も寄居町も状況は変わらないのだと痛感しましたね。

#### 関連リンク

株式会社まちづくり寄居  
離島総合研究所



JTB総合研究所

風景の一部になる 地元出身だからできる地域のまちづくり（後編）



登録日 2019年3月29日（金曜） 00:00



---

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）

主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



まちづくり情報サイト

「街元気」は、まちをもっと元気にしようとまちづくりに頑張る人を応援します

f シェアする

Tweet

🗺️ サイトマップ

イベント・メルマガ

研修・オープン会議

学習教材・統計

コラム・事例紹介

タウンプロデューサー

まちづくり掲示板

政策関連情報

このサイトについて

## コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 風景の一部になる 地元出身だからできる地域のまちづくり（後編） 上田 嘉通さん

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

### 風景の一部になる

地元出身だからできる地域のまちづくり（後編）  
埼玉県寄居町・タウンマネージャー 上田 嘉通さん

f シェアする

Tweet



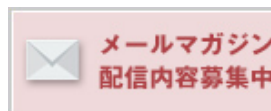
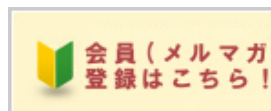
### 上田 嘉通（うへだ よしみち）

早稲田大学大学院理工学研究科を修了後、海外の都市開発や、日本の島々の振興や調査・研究に携わり、人とのコミュニケーションを通じた地域づくりの実績を持つ。2018年出身地の埼玉県に帰り株式会社小田屋設立。株式会社まちづくり寄居タウンマネージャー・一般社団法人離島総合研究所代表理事・株式会社JTB総研客員研究員などを兼任。37歳。

### 寄居町に戻ってこれたからのお仕事、活動内容はどのようなものですか。

寄居町に帰ってきて、株式会社小田屋という会社を立ち上げました。小田屋は、祖母がやっていた商店の屋号です。仕事は、まちづくり会社の委託を受けて、タウンマネージャーの業務を担当しています。和菓子屋さんですかと尋ねられるような古風な名前ですが、祖母の想いも継いでいきたいという思いもあり、あえてその名前を採用し、名刺には家紋も入れました。

寄居町は2018年3月に中心市街地活性化計画の認定を取得しました。そのため、今後5年間にわたっ



🔍 サイト内検索

検索

🔍 もっと詳しく検索する



て事業が進んでいきます。私の一番のミッションは、まちづくり会社が担う、特に地域の稼ぐにつながる事業を軌道に乗せるという点です。現在、寄居駅前拠点の開発計画をプランニングしており、駅前といっても、ポテンシャルをあまり感じない寄居駅前を、どのように魅力あるまちにできるかについて、考え、悩んでいます。まちづくり会社が開発主体でリスクを負いますので、まちづくり会社にとっては死活問題といえます。会社を潰すわけにはいきませんので、多様な専門家の知恵も借りながら、進めていく必要があります。

また、ソフト面の取組としては、空き店舗の活用があります。寄居町は、商店街といっても住宅と商店がまばらに並ぶような配置ですので、賑わいのある感じではありません。ここでも他地域と同様に、空き店舗が増えています。空き店舗を利用し、新しい事業を始める方をいかにして増やしていくかが当面の課題です。例えば、マルシェイベントは、“ブチ”創業したい人がお試しで出店することができますが、これは創業のひとつのきっかけになると思います。その際、商工会の創業支援や経営支援のサポートが手厚いことや、これから創業を検討されている方々を対象とした「創業塾」があることを発信していきたいと思っています。

また、空き店舗とのマッチングも必要ですので、「空き店舗フェア」を開催しています。基本的に、市街地の空き物件は、まちづくり会社が一元管理をしており、全て見学することが可能です。年に1回程度、空き店舗ツアーというイベントにしたり、個別に案内したりしています。今年は創業塾と空き店舗ツアーを同時に行いました。

**ネーミングが面白いイベントを数多く立ち上げられていますが、まちの人の意識を変えるためにどのような手法を取られたのでしょうか。**

私は運良く、商工会の会長や副会長と話をする場にいることができたのですが、その場には若者は誰もいませんでした。年配の方々は年配の方々に集まり、若者は若者で集まっています。それぞれ思いを持って活動しているのに、全く繋がっていません。自分の仕事やミッションではありませんが、世代を繋げる役割を担っていかなければならないと感じています。

寄居町に帰る少し前から「寄居わからんナイト」というイベントを始めました。若者の「わか」に、ベテランの「らん」を付けて「わからん」です。若者は、年配の方々がこれまで何をしてきたのかを知らず、「自分たちはこれからこうしたい、ああしたい」と思っています。一方、年配の方々は、「若者の考えが理解できない」と思っています。コミュニケーションがきちんと取れていないため、お互いの



ことが分からないという状況です。そこで、若者とベテランが交流し、お互いのわからないことを解消していくことを目指し、取組を始めました。

2018年の3月から12月まで月1回のペースで開催しました。様々なお店を知る機会となるよう、毎回違うお店で開催しました。初めて来る人は1人10分間の自己紹介をします。10分間で、自分は今何をしていて、なぜ今寄居町に関わっているのかについて話して頂きます。年配の方々の中にも、東京に出ていることがある方もたくさんいますので、なぜ帰ってきたのかを話して頂きます。若者はいまの姿しか知りませんので、興味を持ちます。東京でバリバリと活動してきた姿など知らないのです。そういったことは逆に新鮮に写っているようです。とても好評で、回を重ね、25～30人の方が集まるようになりました。

その後、仕事が忙しく、イベント企画の手が回らなくなったこともあり、「わからんナイト」は「寄居町100人カイギ」という次の仕組へと切り替えました。「寄居町100人カイギ」は、毎回5人のゲストが、1人10分で話をします。毎回5人で全20回やると100人になりますので、そこまでたどりついたら解散します。一度に100人が集まるわけではありません。ゲストとして話をするのは、寄居町の出身者や、在住、在勤、在学など、何かしら関わりがある人です。有名人だとおもしろくありませんので、「こんな人もいるのか」といった新しい発見があるようにしたいと思い、その点を意識して人選をしています。町役場が主催している若手のまちづくり会議、若者会議に活発に参加している若者4人と私の5人で運営チームを作り、始めました。「100人カイギ」は東京の港区で始まったもので、渋谷などいろいろなところで開催されています。仕組みがしっかりできており、運営の負担が少なくなるよう、工夫がされています。





寄居町100人カイギの様子

**年配と若者のコミュニケーションはなかなか難しいと思いますが、どのような工夫をされたのでしょうか。**

私は37歳であり、若者と年配のちょうど中間ぐらいの年齢となります。だからこそ、両者の声に耳を傾けることができ、両者を繋げられたのではないかと考えています。

商工会会長をはじめとする年配の方々も、この街を良くしたいという想いがあり、30年前は活発にまちづくりを行っていました。それが基礎となり、今の色々なまちづくりへと繋がっています。一方で、年配の方々からは、「当時の大人や役場は話を聞いてくれなかった、特に商店街や地域の年配の方々は全く相手をしてくれなかった」と聞きます。年配の方々が若者を受け入れていたら、もっとよいまちづくりができたのかもしれませんが。また、年配の方々にとってみると、30年前に自分たちができなかったからこそ、若者たちがやりたいと思うことを応援したいという気持ちもあると思います。それが合意形成に繋がっているのだと思いますし、年配の方々ががそういう自らそのような環境を作っているのはありがたいですね。

昭和62年、地域では伝説になっているイベント「Yoriiあらかわめっせ」を開催したリーダーが当時37歳で、メンバーはリーダーより少し若かったそうです。私は今、当時のリーダーと同じ37歳です。若者会議で関わっている人が30歳前後ですので、当時と今の境遇は似ています。そういったこともあ

り、今回、「Yoriiあらかわめっせ」というイベントと同じ名前のチームを作り、マルシェを立ち上げました。同じ名前であることで、みんなが応援したくなる流れが生まれます。例えば、当時のロゴを若者がいいねと言って使ってくれるようになったり、「Yoriiあらかわめっせ」の伝説について話して頂いたりすることで、年配の方々と若者がさらに仲良くなっていきます。ちなみに、当時は幕張メッセが建設される前でしたので、日本で最初に寄居町が「めっせ」という言葉を使ったのですよ。



寄居のシンボルのひとつ 荒川

1 2

#### 関連リンク

株式会社まちづくり寄居

離島総合研究所

JTB総合研究所

風景の一部になる 地元出身だからできる地域のまちづくり（前編）

登録日 2019年3月29日（金曜）00:00

経済産業省（法人番号 4000012090001）

主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

**Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.**



## コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > 風景の一部になる 地元出身だからできる地域のまちづくり（後編） 上田 嘉通さん - 2ページ目

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

### 風景の一部になる

地元出身だからできる地域のまちづくり（後編）  
埼玉県寄居町・タウンマネージャー 上田 嘉通さん

いまは、どれぐらいのペースで寄居町にいらっしゃいますか。また、今後どんなことに力を入れていきたいですか。

今は月の半分程度、寄居町で生活をし、タウンマネージャーとして活動しています。残り半分は、新しく立ち上げた一般社団法人離島総合研究所という組織にて、島の仕事をしています。

また、今後は、地元出身のタウンマネージャーのモデルとなるような、地元出身のタウンマネージャーだからこそできることをやろうと思っています。その中で考えていることとして、「自分自身も地域に投資する」ということです。ひとりの住民として、また、プレーヤーとして、リスクを負って投資するという関わり方も必要と考えています。投資する姿勢を若者や年配の方々に見せて行くことができるのは、出身地に関わるタウンマネージャーだからこそできることではないかと思っています。

具体的には、空き物件のリノベーションを考えています。寄居町は、人は良く、コミュニケーション力もあり、ワークショップなども実施していますが、実戦が弱いという点があります。今のところ、空き物件の活用は、勢いのある流れにはなっていません。勢いをつけるためにも、波及効果があり、まちの意識を変えるターニングポイントになるような、きちんとリノベーションが施された物件を作る必要があると思っています。そのためには、作り方、デザイン、プロセスそのものをよく考えなければいけません。

この他には、ひとり1店舗運動を広げていこうと思っています。市街地の中に、自分の店と呼べる店

ログイン

会員（メルマガ）  
登録はこちら！

メールマガジン  
配信内容募集中

マチイベ！  
-街のイベント-  
掲載依頼募集中

🔍 サイト内検索

検索

🔍 もっと詳しく検索する



をひとり1店舗ずつ作ろうという活動です。様々な関わり方があると思います。自分がお金を出してオーナーになっても良いですし、何かやりたい人にお金をだして応援するのも、「自分の店」と言えるかもしれません。年配の方々は、お金がなくても、人間関係や信頼など、これまで培ってきた資産を使うこともできます。自分ができることを生かして地域に貢献していく方法はいっぱいあります。自分の店と呼べる店が市街地に1つでき、「自分の店があるから市街地に行こうぜ」と言えますので、ひとり1店舗運動は上げていきたいと思っています。

**今回、ちょうど、ワークショップを見学させていただく機会がありました。その時に「稼ぐまちづくりは本質ではない」とおっしゃっていたのが印象的でした。具体的にどういったことでしょうか。**

幸せかどうか、ですね。お金は必要だけど、めちゃくちゃ稼いで拡大していくということだけが幸せではないと思います。お金より信頼を積み重ねた方が良いと思います。事業を立ち上げる時、若者はお金がないからできないと言います。私は、信頼関係の中でお金が動くと思っていますので、「お金なんかどうにかなるよ」、と若者には言います。お金がないというのは、そもそも集めようとしていないだけに見えます。まちづくりに集まるメンバーがいて、応援しようというムードになってきているので、「お金を出してください」ときちんと甘えて、きちんと成果を出していく関係を構築できることが、このまちなのだろうと思います。

お金はあとから付いてくると思います。お金よりも、人間関係や信頼を積み重ねていくことが大事だということを、なんとなくみんな分かっているのではないかと思います。

**この仕事をやってよかったことはどんなことがありますか。**

もっともよかったことは、知り合いが徐々に増えていくことです。子供の頃、私が買い物をしていた文房具屋さんや、カツ丼屋さん、ただ物を買に行く所、食べに行く所でしかありませんでした。子供の頃は店舗の商品しか見えていませんでしたが、事業のこと、お店のこと、人のことが今は見えるようになり、お店のおばちゃん、おじちゃんとも仲良くなっています。きちんとコミュニケーションが取れ、世間話もできるような関係になっていっていることだと思います。また、飲み屋に行ったら知り合いに会ったか、都会の人は嫌なのかもしれないですけど、私は心地が良いですね。

まちづくりケース集



街元気サイトのポスター



@machigenki

街元気 Facebook

経済産業省

中小企業基盤整備機構

全国商店街 支援センター

また、人の営みに根差した美しい風景を作りたいと思って仕事をしていますが、自分がその風景の一部になっている感じがある時、とてもうれしく思います。もともと出身が市街地ではないので、なおさらかもしれません。

私は、日本のまちは美しいと思います。寄居駅前も、多少寂しい感じはありますが、やはり美しいと思います。ベトナムでの気づきがあったからこそ、風景を肯定的に捉えようと思うようになりました。風景は必然的に作られ、そこに、関わってきた人など、いろんな人の思いが込められて、今があると思っています。



寄居駅前の交流拠点「まちタネ！」



まちタネで利用者と談笑する上田さん

1 2

#### 関連リンク

株式会社まちづくり寄居

離島総合研究所

JTB総合研究所

風景の一部になる 地元出身だからできる地域のまちづくり（前編）

登録日 2019年3月29日（金曜）00:00

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）

主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

**Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.**